

塵使いは思いつきで行  
動する～行き当たり  
ばったりとも言う～

チリチリチリチリチリ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

オリキャラが主人公のワンピースの二次創作です。

基本、主人公は自己中&思いつきで小さいことから大きいことまで行動に移すので、いきなり懸賞金が跳ね上がったります。

いきなり懸賞金が跳ね上がるのは原作も同じなんで、大丈夫だと思いますが一応。

麦わら海賊団は、あまり出てこないかもしれませんが。

海兵はいっぱい出ますけど。

原則は原作の設定通りにしますが、決定的な違い以外は独自設定とかそんな感じだと思ってください。

決定的な違いがあつた場合はお教え下さい。すぐに訂正いたします。

主人公はクロコダイルさんのスナスナの実の上位種の悪魔の実を食べますので、少しでも忌避感を持った場合は閲覧は止したほうが良いと思います。

以上のことが許せる方のみお読みください。

# 目次

始まり

1

# 始まり

「いったただきまーす」

そんな軽い口調でその人物は展示されていたソレにかぶりついた。

ここは世界博物館。

世界中から珍しいものや考古学的に貴重なものが集まり、展示している場所だ。

そしてこの日の世界博物館の目玉は、世にも奇妙な果物。

通称「悪魔の実」の1つだ。

売れば最低1億、喰らえばその実に宿る悪魔の力を自由に使うことができる。

悪魔の力を得る代償はたった1つ。一生力ナツチになるだけ。

ローリスクハイリターンの悪魔の実。

世界博物館に展示されていたそれをその人物は喰らったのだ。

邪魔をした警備を皆殺しにし、目撃者となつてしまった哀れな観客も皆殺しにし、そ

れを喰らったのだ。

「まっずー」

そんな感想を言うのは、悪魔の実を喰らった者の共通項だ。

言い忘れていたが、悪魔の実は凄まじく不味い。

その人物は悪魔の実を全て胃に取めると、その能力を確かめる。

その人物の周りにキラキラと埃が舞い始めたかと思ったら、今度は砂。

そして砂はより細かく……そう、その人物は塵となっていた。

「ああ、これだこれ。これこそ俺が探してた悪魔の実……チリチリの実だ」

悪魔の実の3系統。

動物への変身能力が身に付く動物系。<sup>ゾオン</sup>

身体を自然物そのものに変化して自在に操れるようになる最強種自然系。<sup>ロギア</sup>

先の2つに属さない人智を超えた能力が身に付く超人系。<sup>パラミシア</sup>

チリチリの実は自然系。

そして政府公認の海賊「王下七武海」の1人であるサー・クロコダイルのスナスナの

実の上位種でもある。

「さて、お前ら」

その人物は展示台の上に乗ったまま、自分に付いてきた連中に笑いかける。

「どうする、俺と一緒に来るか？」

「我々に今更戻る場所などありませんって」

「そうそう、俺らは一生アンタに付いていく為に国を捨てたんだ。嫌がっても付いてく

「ぜ」

「キヒヒヒ。逃がさない」

「……」

全員が頷き、その人物は肩を竦めると展示台から降りて歩き出す。

「んじや、行くか。ダーク海賊団。旗揚げじゃー」

「一生ついて行きますとも、我が主……黒炭ヤト様」

「ダークつて言え、おバカ」

「すいません、船長」

後に世界を揺るがす大事件を単独で行うことになる「ダーク海賊団」の結成時メン

バーは全部で5人。

「お前らも偽名考えとけよ。ワノ国の侍ってバレたら面倒になるからよ」

「ダーク海賊団」船長　ダーク……本名　黒炭ヤト。

「適当に考えておきます」

「ダーク海賊団」戦闘員　クロス……本名　佐々本コムサシ。

「そういや、俺らが乗ってきた船もうボロボロだったぞ」

「ダーク海賊団」戦闘員　キメラ……本名　二条又工彦。

「キヒヒヒ」

「ダーク海賊団」戦闘員　ロクフ……本名　魔織田テンプラ

「……」

「ダーク海賊団」戦闘員　ヌラ……本名　野良裏クロ子。

世界博物館襲撃事件後、彼らの首には懸賞金100万ずつ。

首謀者である船長には懸賞金200万がその首にかけられることとなった。